

＜令和2年度 新学習指導要領の実施に向けた実践研究事業 六郷小＞

学年・教科：6年・国語 教材名：きつねの窓

ねらい：自分で考えたり、周囲と話し合ったりする活動を通して、子ぎつねがどのような思いでぼくの前に現れたのかについて、自分の考えを表現することができる。

教師の発問、生徒の反応	学習の様子
<p>1 単元の課題の確認、前時までの振り返りを行う。(13:25) T：この単元の課題は何だったけ？ S：「登場人物の行動について深く考え、作者に手紙を書こう。」です。 T：これまでの授業では、どんなことをやってきたかな。 S：「子ぎつねの心情の変化(からかい→信頼)」「窓のはたらき」などについて考えてきました。 S：子ぎつねの窓には死んだ母ぎつね、僕の窓には女の子と家、今はもう存在しないけれど、心に強く残っているものが映るのだったな。 S：前時の最後に、子ぎつねがどのような思いを伝えたくてぼくの前に現れたのかを個人で考えて書いたな。</p>	
<p>2 本時のめあてをつかむ。(確認する。)(13:28) <めあて> 『子ぎつねは、どのような思いを伝えたくて、ぼくの前に現れたのだろうか?』</p>	
<p>3 話し合いの流れを確認する。(13:30) T：この後の流れは、 ①グループになり、自分の考えを理由も含めて説明する。 ②説明された考えと理由がつながっているかどうか確認する。 ③考えと理由がうまくつながってなかった場合、修正する。 ④グループで出た考えを短冊に書く。 です。</p>	
<p>4 課題を追究するために個人で考えたことをグループで確認する。(13:32) S：ぼくに対する「怒り」だよ。なぜなら、子ぎつねは人間に大切な母親を殺されたわけだから。 S：子ぎつねは「寂しさ」を伝えたかったんじゃないかな。だって、子ぎつねは母ぎつねも死んでしまって、ひとりぼっちなんですよ。 S：「きつねをもうこれ以上殺さないで」という願いじゃないかな。 S：「窓のすばらしさ」をぼくに伝えて、ぼくを喜ばせようとしたんじゃないかな。だって、ぼくも会えない人に会えたら嬉しいですよ。</p>	
<p>5 個人から出された考えについてグループで検討し、短冊に書く。</p> <p>6 短冊を児童がグルーピングしながら黒板に貼り、短冊をもとに教師がコーディネートしながら、学級全体で内容について確認していく。(13:40) S：「子ぎつねの悲しみ」だと思います。 S：「ぼくと子ぎつねで共感したい思い」だと思います。 S：「窓のすばらしさ」だと思います。 S：「命の大切さ」だと思います。</p>	
<p>考えが深まるはたらきかけ 『子ぎつねとの出会いを通して、ぼくはどのように変わったのかな?』 S：「大切な存在にもっと生きて欲しい」という気持ちになったのだと思います。 S：「世の中には、鉄砲よりも大切なものがある」と考えるようになったのだと思います。</p>	
<p>7 グループ活動、全体交流で得た考えをもとに、自分の考えをまとめる。(14:00) <まとめ> 『子ぎつねは、〇〇な思い(子ぎつねがぼくに伝えたい思い)を伝えるためにぼくの前に現れたと思います。なぜなら、〇〇(そう考えた理由)だからです。』</p>	
<p>S：子ぎつねは、「窓」を通して「命を大切にしたい」という思いを伝えるためにぼくの前に現れたと思います。なぜなら、「大切なものを無くすことがどんなに悲しいか」を、ぼくに時間をかけて考えてもらっているからです。</p> <p>8 振り返りをする。(視点：「わかったこと」「友達から学んだこと」) わ：子ぎつねは、「窓のすばらしさ」や「命の大切さ」を伝えたいと考えていたことがわかった。 と：学級全体での発表で、自分の考え以外の考えがあることに気付いた。また、自分と似たようなことを考えている人もいて、自分の考えにより自信がもてた。</p>	